

令和2年度 研究主題 自分の考えを深めることができる児童の育成
～国語科「読むこと」の学習を通して～

第2学年 国語科

単元名 せつめいのしかたに気をつけて読み、それをいかして書こう
教材名「馬のおもちやの作り方」(光村図書2年下)

単元の目標 「馬のおもちやの作り方」の説明から、事柄の順序を捉えたり内容の大体を捉えたりして、自分のおもちやの作り方の説明文を書くことができるようにする。

【本時のめあて】

「馬のおもちやの作り方」を読み、自分のおもちやの作り方の説明書を見直そう。

【課題設定の工夫】

自分のおもちやの作り方を見直すために「馬のおもちやの作り方」を読み、工夫を見付けようとする意欲をもつことができるようにした。

【考えを深めるための工夫①】

児童は、教師に正しくおもちやを作ってもらうために説明をする。教師がおもちや作りをすることで読むことに集中させ、必ず伝えた方がよいこと、分かりやすく伝えるために大切なことを考えられるようにした。



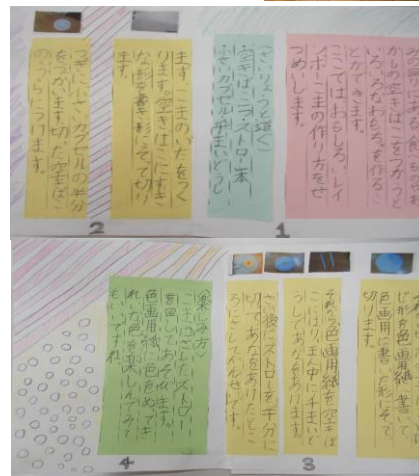
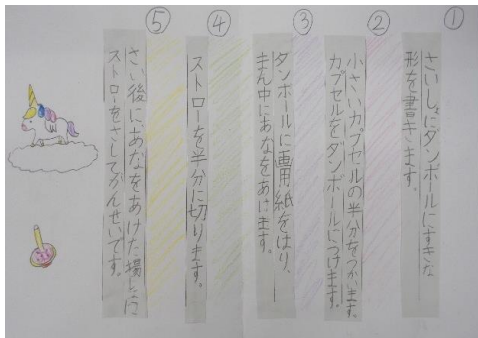
【考えを深めるための工夫②】

自分のおもちやの作り方の説明書を振り返らせ、「馬のおもちやの作り方」の本文から見付けた工夫を生かすことができるようにした。



【評価（見取り）の工夫】

授業の最後に、生活科で書いた自分のおもちやの作り方の説明書を振り返るようにした。前時に学習した自分のおもちやの説明書に生かしたい工夫を振り返ることで、児童が理解できているかを見取りやすくなった。



順序を表す言葉や写真や図などを付け足したことで、自分のおもちやの説明書が相手に伝わりやすいものになった。

【○成果と▲課題】

- 課題設定を工夫したことで目的意識が明確になり、おもちやの作り方の説明書の作成への意欲が高まった。
- 生活科で作成した自分のおもちやの説明書を毎時間の学習の始まりと終わりに見直したことで自分の文章に足りないところを考え、全体の構成や順序を表す言葉が大切であることに気が付くことができた。
- ▲読み取りの視点を明確にしてからサイドラインを引くことができるようにするとよかった。
- ▲実際に馬のおもちやを作るときに失敗をしてみて、なぜ失敗したのかを考えることができるようにすると読みが深まったのではないかな。